

## ～ 【「鬼滅の刃」と受験勉強】～

一昔前までは日本の輸出品と言えば、自動車、家電製品、LSI等が有名でしたが、最近では日本のアニメが海外で大人気だそうです。

人はアニメに果たせぬ夢を求めるようです。我々の少年時代のアニメといえば「巨人の星」が代表作でしょう。主人公・星飛雄馬（中学生でこれが



読めた人は「アニメ通」です。「ほしひゅうま」と読みます。)が投げる大リーグボール1号～3号に心を躍らせ、放映される毎週土曜日の夕方6時が待ち遠しくてしかたありませんでした。中学生時代になると「宇宙戦艦ヤマト」がブームとなったようです。世界一と謳われながら活躍することなく、東シナ海で沈没した戦艦大和が、宇宙戦艦ヤマトとして蘇り、苦難の戦い、航海の末に世界を救うというストーリーにみんな熱狂しました。

そして今。世界中でヒットを飛ばしたアニメといえば「鬼滅の刃」をおいて他にはないでしょう。

鬼滅の刃がなぜ大ヒットしたか。もちろんたくさんの方の要因があるはずですが、そのうちのひとつは、主人公の炭治郎が、妹の禰豆子を人間に戻すため、「俺には努力することしかできない。」と自分を叱咤激励し、苦難の末に自分の夢を叶える、というストーリーに、日本人から消えつつある「努力」「一生懸命」を見出し、これにみんなが憧れたからだと、私は思います。

つまり、自分の日常生活から「努力」「一生懸命」

という思いが消え、それがいつの間にかフィクションという非現実的なものになってしまったからだと思います。現代の若者にとって「努力」「一生懸命」はもはやアニメという空想の世界のものになってしまっているような気がします。もう一人の主演、我妻善逸が語りました。「努力するのは苦手です。地道にコツコツやるのが一番しんどいです。」と。これが現代の若者の本心を端的に表している言葉なのではないでしょうか。

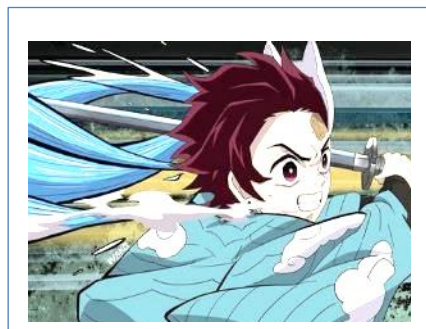


さて先日、令和3年度前期の期末テストが終了し、成績一覧表が校長室にも届けられました。受験を控えた3年生の成績が特に気になります。度数分布で見ると、通常は平均値付近の生徒数が最も多く、それから離れるにしたがって人数が減って言う「正規分布」型になるはずですが、しかし今回は（と敢えて書きます。）逆に平均値の部分の凹んだ、フタコブラクダ型になりつつある分布のようでした。成績の2極分解、まできとは言いませんが、それに向かいつつある分布の形になっています。

そこで先ほどの「鬼滅の刃」のお話です。鹿南中には既に「努力」「一生懸命」を放棄した生徒がいるのでしょうか。どうせ受験勉強なんてなくても合格するから、時間の無駄。スマホやゲームをやって楽しい中学校時代を送るんだ、と悟っているのでしょうか。もしそう安易に考えていたらとんでもない間違いです。

人生にはいくつかの節目があります。それはみ

んなが通り抜けるべき節目です。3年生が今直面している節目は、受験勉強というものです。日本中の中学3年生の誰もが経験する



努力はやっぱりすべきだと思うし、人がすべき努力を経験せずに社会人になったら、これからの人生で出会うたくさんの試練に立ち向かうことができず、いつまでたってもお父さん、お母さんの腕の中から立ちできない人になっていくように思います。

受験勉強とは高校に合格するためだけにすることではありません。目標達成のために、自分の好きなことを我慢して、現実から逃げ出しそうな自分を叱咤激励しながら、一日一日をやっとの思いで過ごしていく中で、強靱な精神力・忍耐力をつけていく作業だと思います。

そしてこの作業をやり通せたときに、一生の、かけがえのない宝物を手にすることができるのです。宝物とは何か。「頑張り、やり遂げることができた自分」に出会うことです。この宝物を手にするということは自分自身を一生応援してくれる応援団を味方につけるということです。

保護者の皆様方。子どもさんはどうですか。受験勉強とは高校合格以上に大切なものを手にするのできる営みです。「今やるべきことは、今やる！」それだけです。子ども達が充実した人生を歩めるように、今、叱咤激励してください。よろしくお願いします。